

# アメリカンフットボールを活用したまちづくり

## アメリカンフットボールと川崎市のこれまでのあゆみ

川崎球場・強豪チームの存在  
毎年、数多くの公式戦試合会場（計100試合以上）として使われる川崎球場  
社会人や学生の強豪チームの拠点などの資源の存在

ワールドカップ2007川崎大会の開催（H19.7）

アジア初のアメリカンフットボール・ワールドカップを川崎で開催  
市及び市内150以上の団体が支援委員会を構成、大会を盛り上げる



川崎市と日本アメリカンフットボール協会が包括協定の締結（H19.11）

アメリカンフットボールを川崎の新たな魅力に育み全国に発信  
アメリカンフットボールを通じた青少年の健全育成の推進  
アメリカンフットボールを活用した地域商業・経済の活性化  
川崎市市内でのアメリカンフットボールの普及・振興



アメリカンフットボールを活用したまちづくり懇談会提言（H20.3）

市、競技関係者、市民による懇談会がまちづくり推進への提言をまとめる  
・アメリカンフットボールを川崎市を拠点に普及、発展させ、川崎市の新たな魅力のひとつとして発展させる。  
・アメリカンフットボールの競技を通じて、スポーツ競技と地域が相互発展する新しいスポーツ文化のモデルを創造する。



アメリカンフットボールを活用したまちづくり推進委員会の設立（H21.3）

川崎市におけるアメリカンフットボールを活かしたまちづくりの推進に関する協議、調整のための組織として設立。  
学識経験者、市内関係団体代表（商店会やPTA、市民）、競技関係者、行政など15名の委員でスタート。



## この間の主な取組み

### 1. アメリカンフットボールの拠点化の推進

魅力的な試合の開催



- ・グローバルチャレンジボウルの開催（日米U19の対戦・H20、21）
- ・ナイトゲームの開催（H21～）
- ・Xリーグセカンドステージの創設と川崎での集中開催（H21～）
- ・アメリカンスクールチームとの国際試合の開催（カメラボウルH22.3）
- ・川崎球場の試合への市民招待の設定（社会人、学生の試合を合わせて年6回の開催）

競技人口増加の取組



- ・法政大学アメフト部による、県内初の小中学生チーム、リトル&ジュニアマホークスの立ち上げ（H20.7）
- ・専修大学アメフト部による、小中学生チーム、川崎ジュニア・リトルグリーンマシーンチームの立ち上げ（H21.7）
- ・市民祭り及び主催試合におけるアサヒビールシルバースターの選手によるアメフト体験イベントの開催（H21.10）

指導・研究の拠点化



- ・コンベンションの開催（H21.3）
- ・米コーチによるクリニックの開催（H20～）
- ・アメフト審判講習会の開催（H20～）

### 2. アメリカンフットボールを活用した地域商業・経済・コミュニティの活性化

地域交流・地域貢献活動



- ・大規模イベント（丸子小杉桜まつり、楽大師、日吉まつり、いいじゃんかわさき等）への選手・チアの継続参加（H18～）
- ・赤い羽根共同募金への協力（H19～）
- ・川崎商工会議所との連携による地域商店街でのアメフト教室等の開催（中野島商店街、法政通り商店街、モトスミ・プレーメン通り商店街ほか）
- ・アメリカンフットボール商店街特典マップ3万部の作成・配布（H21.8）

### 3. アメリカンフットボールと川崎の魅力発信・相互イメージアップ

連携広報の推進



- ・市と競技関係者の連携広報活動。川崎市限定試合広報ポスターの作成・掲出（春季、秋季）
- ・市内運行の市バス、臨港バス車内での試合告知ポスターの掲示
- ・河川情報掲示板、川崎駅東西自由通路時計塔装飾を利用した試合広報
- ・さまざまな媒体への情報発信

### 4. フラッグフットボールを通じた子どもたちの健全育成と市民の“絆”の強化

フラッグフットボールの普及



- ・小学校64校（114校中）で実施
- ・わくわくプラザでの普及（臨港バスからのボール寄付）
- ・フラッグフットボール指導者養成講習会の実施
- ・総合型地域スポーツクラブでの普及
- ・小中学生交流大会の開催（H19～）
- ・中原区長杯フラッグフットボール小学生交流大会の開催